

吉田 戦争の悲劇を再び繰り返さないためには、戦争の記憶を風化させないことと、そして次の世代に語り継いでいくことが大切です。木村さんのような若い方が戦争体験者からバトンを受け継ぎ、また次の世代につなげていく活動をしていること、頼もしく思います。今年は戦後80年、それぞれが自分のできることを考え、平和な社会を持続可能にしていきたいと思います。

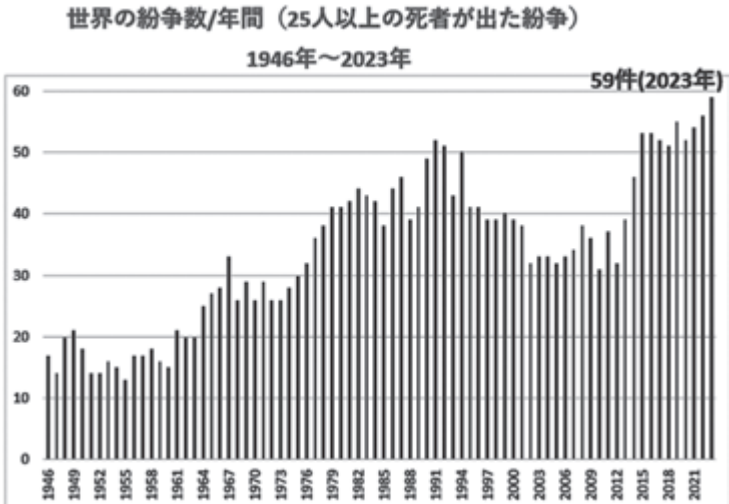
いっしょに未来を描けるように



今年は戦後80年という節目の年です。この80年間、日本では戦争は起きていません。現在のこの平和な社会に生きている私たちは、平和であることは当然と思ってしまっています。しかし、現在も世界の中には、それが当たり前のことではない国もあります。そんな世界の現状を知り、「平和」について改めて考えていきたいと思います。

いまだに 絶えない紛争

日本に住んでいると戦争はどこか遠い存在のように思えてしまいがちですが、世界各地では紛争が絶えず、多くの犠牲者や難民が生まれています。2022年にロシアがウクライナ侵攻を始め、今もまだ戦いが続いています。2023年には私たちの消費材『パレスチナオリブオイル』の産地であるパレスチナとイスラエルの間でも紛争が始まりましたが、この地域では70年以上にわたって何度も争いが起きています。また、内戦やテロ行為、クーデターに加え、ヘイト



Uppsala Conflict Data Programより

クライム、ジェノサイドなど人権を無視した行為が今もおこなわれています。

紛争下での 子どもたち

「公益財団法人 日本ユニセフ協会」によると、現在、世界で6人に1人以上に当たる4億7千300万人を超える子どもが、紛争の影響を受けている地域に暮らしています。世界では今、第二次世界大戦後、もっとも多くの紛争が発生しており、紛争地域で暮らす世界の子どもは割合は、1990年代のほぼ2倍の19%近くとなり、多くの子どもたちが犠牲となっています。紛争により、子どもたちはさまざまな被害に遭っています。命を落としたりけがをしたりする、また、学校に通えない、ワクチンを接種できない、重度の栄養不良に陥るなどのほかに、家族や住む場所を失い難民化したり、人身売買を目的とした誘拐や性的被害に遭ったり、兵士として徴用されることも起こっています。紛争は大人と子ども双方に深刻な被害をもたらしますが、子どもたちはより身体

的にも精神的にも長期的な影響を受ける可能性が高いです。

学校に通えないと教育を受けることができないということです。将来の仕事選びや社会参加に支障をきたし、貧困から抜け出すことも、未来を夢見ることも難しくなります。未来を夢見る権利を子どもたちから奪ってはけません。

「平和」とは

平和についてなかなか考える機会がありませんが、平和とえば戦争や紛争がないことだけでなく、犯罪や暴力がないこと、貧困や飢餓がないこと、人権が尊重されること、心穏やかに過ごせること、たすけ合って暮らせること、教育や医療が受けられることなど、人にとっていろいろです。

ドイツ生まれの理論物理学者アルバート・アインシュタインは、*“Peace cannot be kept by force. It can only be achieved by understanding.”*（平和は力では保たれない。平和はただ理解し合うことによってのみ達成されるのだ）と言っています。異なる考



えや文化を持つ人たちが、お互いの立場や気持ちを理解しようと努めることで、初めて平和な関係を築くことができるのです。

異なる考えや背景を持っても、お互いを人として尊重し合い、相手の立場に立って考え、対話や交流を通じて理解できたら、争いごとはなくなり、平和な暮らしを送り続けることができます。私たちがすぐにできる取り組みはこれではないでしょうか。この8月、各地域で平和を考える企画をおこないます。世界中の子どもたちが夢見て未来を描くことができるように、今、いっしょに考え、行動を起こしていきましょう。

南河内地域
『旬菜セット』使いこなし
料理会
5月17日(土)
堺市立美原文化会館
料理室(堺市美原区)

南河内地域理事 山田 恵子



セット野菜を使いこなそう！

ぎ、きゅうり、『やさしいBOXミニ
セット』には、キャベツ、大阪しろ
な、ほうれん草、サニーレタスが
入っていました。大根は、せん切
りにしてサラダやスープにし、
葉っぱは細かく切りごま油で炒
めました。小松菜と大阪しろな

11月より変わるセット野
菜やカタログ野菜の取り組みと新しい
生産者や栽培方法など、資料をもとに
説明した後、前日届いたエスコープ大
阪が取り組んでいる『旬菜セット』と
新しい生産者の野菜が入った『やさ
いBOX』(生活クラブ大阪、生活クラ
ブ京都エル・コップ、生活クラブ奈良、生
活クラブ滋賀が取り組んでいるセット
野菜を「㈱ウインナークラブ」の豚肉
と消費材の調味料を使って、野菜料理
を作りました。参加者は8人で、うち
2人は男性でした。

前日に届いた新鮮な野菜を見てか
ら、約10種類の野菜料理を考えてくれ
たサポーターの指示のもと、余った野
菜の活用方法も盛り込みながら料理
しました。

『旬菜ファミリースセット』には、大根、
小松菜、うすいえんどう、ニラ、赤玉ね

泉北ニュータウン地域
店舗でプチ試食会
4月25日(金)
城山台Do(堺市南区)

泉北ニュータウン地域理事
新家 晴子

店舗「城山台Do」で
カップケーキ試食会



た、たんぱく質
をたっぷり摂
ることができる
「もっちりもち
きな粉蒸しパン
」と、簡単なの
濃厚な「米粉
フォンダンショ
コラ」のカップ

今回は初めての試みとして、店舗「城
山台Do」のカウンターキッチンを利用
して、プチ試食会を企画しました。時短、
ヘルシー、おいしいをテーマに、レシピを考
案しました。何度も試作を重ねてでき

ケーキ2品を試食してもらいました。
どちらも材料を混ぜて、電子レンジで
チンするだけの簡単レシピです。きな粉
とココアの香りが店内いっぱいに広が

河内長野・大阪狭山地域
セット野菜を使いこなす
料理会
5月22日(木)
河内長野市立
市民交流センター 食工房
(河内長野市)

河内長野・大阪狭山地域理事
沼田 典子



『旬菜セット』を
うまく使いこなす方法を知って
今から登録しましょう！

た野菜がいろんな料理に変
身、一人当たり500gぐ
らいの量の野菜をしっかりと
おいしくいただきました。

参加者からは「信用でき
る生産者の安心・安全な野
菜をぜひ登録したい」「一

11月からの関西6生協野菜統
一取り組み前に、現在エスコープ
大阪が取り組んでいる「菜食ファーム」
の『旬菜セット』の登録を迷っている組
合員対象に、『旬菜セット』のおいしさ
を味わってもらうために、使いこなす方
法を実践して登録の呼びかけをしまし
た。調理の前に、届く野菜の内容、新鮮
さ、季節感、保存方法や菜食ファームの
栽培へのこだわり、苦労の様子などを
話して、セット野菜統一取り組みに向
けての説明もしました。

『ファミリースセット』の種類や量を確
かめてから、参加者のおすすめ調理法
や地域委員提案のアレンジ料理など、
6種類の野菜を使って11品目作りまし
た。「㈱ウインナークラブ」の豚肉も用
意し「肉団子と新玉ねぎの煮物」や
「小松菜との牡蠣味炒め」など豚肉の
おいしさも味わいました。たくさんあつ

りました。二品ともひとくちサイズに
カットして、食べてもらいました。来店
したほとんどの組合員の方が試食し、
「家で作ってみるわ!」とレシピを持って
帰られる方もいました。店頭で販売し
ていた「米粉のホットケーキミックス」
と「きな粉」が、帰る頃には品切れ間近
になっていました。次回7月は、野菜を
使ったレシピの試食会を開催する予定
ですので、皆さんぜひ来店してください。
「食べるカタログ」に載っていない消費
材に出会えたり、店舗スタッフとオス
メ消費材の話ができたり、時には割引

価格で消費材が購入できたりする魅力
的な店舗「城山台Do」をひとりでも多
くの方に知ってもらい、利用してもらい
たいと思っています。私たちの企画が、
皆さんの足を運ぶきっかけにもなれば
と思っています。

さらに魅力的な店舗にするためには
どうしたらいいか、ぜひ一緒に考えてく
ださい。今、プラごみの減量を目指し、
量り売りが導入できないか検討してお
り、すでに実践しているお店の視察に今
度行ってきます。店舗オリジナルの消
費材の検討もすすめています。



「おおぜいの私」がつくるエスコープ大阪

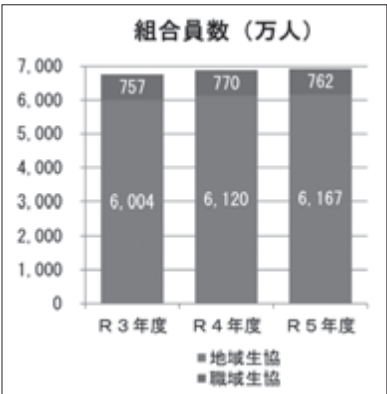
vol.25『願いを実現する』

生活協同組合であるエスコープ大阪について、隔月で連載します。

●日本に約7千万人の組合員

生協とは消費者生活協同組合の略で、「消費生活
協同組合法(略称:生協法)」に基づき、消費者によっ

て組織された協同組合
です。日本では、1920年
代に神戸購買組合や灘
購買組合、東京学生消
費組合などが設立され
生協運動が本格化し、
2023年度には904の生
協があり、組合員は延
べ6929万人、世帯加入



率は39.5%となっています。5軒に2軒が生協の組
合員ということになり、身近な協同組合と言えます。

全国にある生協は、エスコープ大阪と同じよ
うに、共同購入や店舗での供給、共済、福祉事業
などのほか、組合員同士のたすけあい活動、暮
らしに関わる学習活動など、幅広く取り組んで
います。

●組合員の願いを実現する

エスコープ大阪の設立初期のスローガンは、
「より良いものをより安く」でした。しかし、

1974年にみかん生産者と出会い、市場みかんの農
薬などによる危険性を聞いたことがきっかけで、
「安全な物資を信頼できる生産者に生産してもら
う」という路線が変わっていきました。食品の大量
生産に伴い、食品公害問題が相次いでいた時代に自
分や家族、生産者にとって安全なものが欲しいとい
う思いを実現させるため、市場とは逆行した動きを
しました。そして1975年には、合成洗剤・輸入果物・
合成飲料の扱いを中止し、
「安全派路線宣言」を政策と
して掲げ、せっけんの取り
扱いや野菜の産直を開始し
ました。その後も組合員の
願いを実現できるように、
さまざまな消費材や仕組み
が作られています。





第13回 理事会報告 <6月7日>

【4月度決算報告】

- 供給高 2億1,231万円(前年同月比97.2%)
*1日少ない
- 組合員数 18,576名(前月比+14名)
- 一人当たりの出資金 94,257円

【5月の放射能検査結果】

5月は連合消費材592検体、関西消費材3検体の放射能検査を実施しました。エスコープ大阪供給分で生活クラブ自主基準を超えた検体はなく、すべての消費材を供給しました。

【決議事項】

- ①役員人事委員会の設置について

【協議事項】

- ①各地域の議案書読み合わせの共有
- ②2025年度組織体制
- ③エスコープまつり
- ④立川有機米研究会との今後の交流のすすめ方について
- ⑤地場野菜50周年の取り組みについて
- ⑥南河内地域の活動計画・予算について・南河内地域企画書4件
- ⑦生活クラブでんきキャンペーンの呼びかけ用冊子について

【報告承認事項】

- ①協同組合フェスティバルへの参加について
- ②旬菜セット チャレンジ野菜 ミニ白菜の価格改定

編集後記

1面の取材の中で、「焼夷弾の形が違うと言われた」と木村さんから聞きました。語り部の方はその時地上から空を見上げていたのだと思い、実際にあった話なのだと改めて感じ、怖くなりました。戦争の直接的な体験を語れる方は少なくなっていますが、次世代へ継承していくことは大切なことだと思いました。(Y)

発行:生活協同組合エスコープ大阪 制作:W.Co パックプランニング

生活協同組合エスコープ大阪

〒590-0151 堺市南区小代727

TEL.072-293-4660 FAX.072-341-0022

<https://s-osaka.seikatsuclub.coop/>



ワーカーズ・コレクティブ紹介

～誰もが安心して自分らしく暮らせる地域をめざして～

誰もが安心して自分らしく暮らせる地域を実現するには、地域で活動する団体との連帯は欠かせません。そこで、隔月で、エスコープ大阪関連のワーカーズ・コレクティブ(以下、W.Co)に登場していただき、抱負などを語っていただきます。

ワーカーズ・コレクティブ

パックプランニング

(岸和田市)



zoomを使ってミーティング

どんな変化にも柔軟に対応 今後も可能性に挑戦していきたい

エスコープ大阪の職員の呼びかけで組合員により結成された、注文カタログの作成を担う「W・C o ら・しーさ」と、活動として機関紙を作成していた組合員で、1996年8月に「W・C o パックプランニング」(以下、パック)を結成しました。主にエスコープ大阪の機関紙『りっふる』や、生活クラブ関西の『食べるカタログ』と関連チラシのデザイン・作成を担い、現在5名のメンバーがそれぞれの得意分野で関わっています。

パックは来年で設立30年を迎えます。当初より組合員の目線と感覚を大切にして業務に関わってきました。注文カタログに関しては、当初はエスコープ大阪単独での発行でしたが、「生協連合会きらり」を経て、現在は生活クラブ関西6生協の組合員が見るカタログへと変わりました。さらに発行の広報紙『わっはっは』の編集・作成にも携わりました。エスコープ大阪の変遷とともに歩んできたと言えます。

その際、1台目のパソコンはエスコープ大阪に購入してもらいましたが、以降はすべて自分たちで購入し、作成に必要なアプリの変更にも対応しています。

パックでは楽しく働くことも大切にしていて、さまざまな研修をおこなってきました。消費材をより近くに感じられるよう、食べたことのない消費材を試食して感想などをカタログ制作に生かしたり、2022年には消費材を使ったレシピの調理・写真撮影の研修をスタート。その後、カタログなどに採用されるようになり、昨年11月には協力団体「V i f」を結成して撮影事業を継承しています。

昨年から生活クラブ関西の依頼で、カタログや関連チラシに掲載する記事の取材・作成もしており、これまでに5回掲載されました。取材には研修を兼ねて可能な限り数名で向き、生産者に会って現場を知る楽しさや大切さなどを蓄積しています。

コロナ禍をきっかけに大きく変化

コロナ禍には、全員が感染すると発行に支障が出るので交替で出勤して業務をし、それをきっかけにリモート

で業務が可能な体制を少しずつ整えました。2023年10月に加したリモートメンバーは「W・C o」という働き方に関心がありました。遠方で通勤が難しく、在宅勤務ができることになり、2年前にメンバーになりました。パックでは、新しいことを始めるときや全員の意見をまとめなければならぬ場合など、一人ひとりの思いや意見を出し合い時間をかけて話し合います。時間はかかりますが、全員が主体的に責任を持って運営していることを実感します。また個人的な事情や希望も汲み取ってもらえるので働きやすいです。直接顔を合わせる機会は少ないですが、毎月のミーティングに参加することで互いの考えや思いを知ることができるようになりました。今年5月にはさらに1名のリモートメンバーが加わり、より柔軟な働き方を模索しています。

パックでは地域に働く場を作るためにツールを増やし、W・C oに関わる人を増やしたいという思いを持って事業をすすめてきました。W・C oは主体的に働けるからといっても、自分のやりたいようにやれるということではありません。提案し、話し合い、努力をすすめています。「W・C oがあつて良かった」「パックがあつて良かった」と思ってくれる人が増えるように、今後も可能性に挑戦していきたいと思っています。

おたよりネット



「りっふる」の感想やご意見、その他投稿は下の「おたよりネット」欄で。配達時に提出、あるいは店舗の専用BOXまで。

268号 「10周年を迎えた「生活クラブでんき」再生可能エネルギー 100%の電気を全組合員に届けたい」を読んで

河内長野・大阪狭山地域 Tさん

再生可能エネルギーについては、CO2を排出せず、環境負荷が少ない素晴らしいものだと思います。特に、「生活クラブでんき」は、発電設備を作るために環境に負荷をかけることもしていないことがよく理解できます。ただ、40万人の組合員の電気をまかなえるようになるのかは不安です。電気を作ることと同時に、いかに電気を使わずに生活するか提案や方法についての情報提供を増やしてほしいと思います。

キリトリ

Ripple おたよりネット

(ペンネームOK)

●地域名

●お名前

●組合員コード

●班名

消費材の苦情についてはこの用紙でなく、電話またはメモで。この欄への投稿・ご意見は紙面でご紹介することがあります。

理事会事務局行き
270号(2025.7.21)

キリトリ